

◆ 2020 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 エコ.エコ
代表者：代表理事 加倉井 憲一
URL : <http://eco-minuma.com>

23A-39

1. 活動が必要とされた状況

植物からみた客観的価値を冊子「植物調査」にまとめ、理解を得る必要がありました。活動場所を専門家に依頼して植物調査をしました。水を入れるホース、自然を知るためにセンサーカメラやドローンの予備の充電機、刈り込みバリカン用電池も保全地の管理と維持のために必要としました。



2. 活動の内容 2020.4.1~2021.2.23

- 〈湿地保全活動〉月2回、第2木曜日、第3金曜日他に臨時で夏の草刈り、秋の枯れ草刈り、ヨシ刈り等の臨時作業を行いました。これから「龍神・マルコ」製作のため臨時の作業が始まります。203名
- 〈ベルダ（森の保全）・畑作業〉畑作業はトラストと協働で毎週火曜日に実施しました。（12月1月は休み）309名
- 〈観察会〉2021年度は全て中止し、代わりに動画を作成しました。動画製作14名
- 〈里山.com〉人数を制限して、活動を実施しました。159名
- 〈ゴミ拾い〉毎週月曜日実施しました。86名
- 〈支援活動〉チャレンジスクール 民家園 のらんど アンロード 188名
- 〈調査〉4名 〈レラの森・民家園保全〉6名
- 合計 969名



3. 活動の成果

- 見沼原形保全区間に隣接する樹木の表示と季節の俳句と動植物の掲示を行いました。道行く人が見てくれるようになりました。また、見知らぬ人からの寄付も頂くことができました。現在、生物多様性のシンボル6代目「龍神・マルコ」を製作中です。
- 草刈り、ヨシ刈りの後にドローンでマルコ（湿地）を撮影してブログにアップすることで、客観的に保全地を観ることができ、良い形の保全につながります。
- 畑は環境保全型農地として、農薬を使わない方法で作物を育てています。周りでは希少種も発見できました。



4. 今後に残された課題

- ① 見沼原形保全区間の手入れを行い、動植物の保護に努め、生物多様性の保たれる空間を増やしていき、多くの方の理解を得る努力をします。公有地化に向けた取り組みを今後も続けていきます。
- ② 本当の意味での豊かな社会（共有する部分を増やす）を創るために、畑、里山体験から働きかけます。
- ③ 動画を製作し、自然理解の輪を広げます。